れきし ぶんかざい

かみのやま 歴史・文化財さんぽ

第10号(平成30年6月)

ミドリ 「牧野にまた来たわね。ここは、介面幢 の他にもまだいろんなものがあるんでしょう?」

ふみお「ちょっとその前に、ぼくは、六面幢に 膨ってある字が気になっていたんだ。」

あゆむ 「あ、この字だよな。」

ミドリ 「なるほど。真ん中に、明なんとか九年 八月じゃない? それに、右には・・・、 大工?」

ふみお「明應九年八月廿二日だよね。」

文じい「ほほう! よく読めたな。」

あゆむ「"甘"という字で二十なの?」

文じい「十 + + と横に書くと二十で、廿と いう字にしたのじゃろう。」

あゆむ「なるほど、昔の人はよく考えたね。」

文じい「それから、他の字は次のようになって いるそうじゃ。」

牧野の

にょらいじろくめんどう

如来寺六面幢

そのつづき、と、

にょらいじあと

如来寺跡の

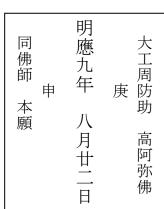
かりゃくに ねんさんぞんい たび

嘉暦二年三尊板碑

げんこうさんねんだいにちい たび

元亨三年大日板碑







ミドリ「大工というと、大工さん?」

ふみお「石大工のことじゃないかな。」

文じい「周防助、造った人の名じゃろうのう。」

ふみお「高阿弥佛というのは?」

文じい「ふむ。左に"同佛師 本願"とあるから、 この人たちも一緒に十王や地蔵菩薩の 像を彫って、建てたということなのかの う。」

ミドノ「左の面にも字のようなものが見える。」

文じい「"旦那道善"とある。道善という名の旦那。 旦那というのは、施主、つまり、この六面 幢を建てた主人のことじゃな。」

ふみお 「お坊さんの名前みたいだね。それに、詳し く彫ってあるのはめずらしいのでは?」

文じい「そう、それで県の文化財に指定された。」

ミドリ「ところで、その他のものはどれ?」

文じい「ほれ、すぐあそこだ。」

あゆむ 「あの森のところ?」



ミドリ 「樹木で見えなかったけど、ここに市指定の 文化財が2つもあったのね。」

文じい「ふむ。正面のものは、嘉暦二年三尊板碑。 それから、右側には、元亨三年大日板碑。」

ふみお「そおっと見せてもらっていいかな。」

文じい 「待ちなさい。まずこのようなものは供養 のために建てたもの、しっかりお参りしてから拝ませてもらおう。」

あゆむ 「六面幢ではお参りしなかったな・・・。」

文じい「ん、うん。 ま、それは後にして、 これらを 見せてもらうと、 次のように見える。」

<嘉暦二年三尊板碑>

(1327年)





ミドリ「三尊というのは?」

文じい「中央上に、阿弥陀如来のキリーク。右は、 観音菩薩のサ。左に、勢至菩薩のサク。」

ふみお「そして、"牛法師の為也"と読むのかな。」

文じい「おお、そうじゃろう。 たいしたものだな。」

あゆむ「へえ、やるな。じゃこっちはどうだ。」

< 元 字 三 年 大 日 板 碑 > (1322 年)



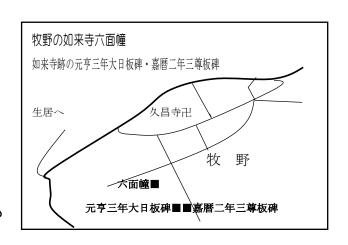


ふみお「種子は大日のアーンク。字は、うーん・・・。」

文じい「ふむ。よくは読み取れないが、子が親の 霊を記るためという、孝子、敬白という字 がおおよそ検討がつく。ただ、年号は、二年 だという見方もあるようじゃ。」

ミドリ 「それにしても、如来寺という寺がこの辺にあったのかしら。」

文じい「そうじゃのう。如来寺という地名があることからもして、寺があり宗教文化の中心地ではなかったかと言われておる。実は他にもあるのだ。また来なければならんぞ!!



発行: 上山市教育委員会生涯学習課文化財・文化芸術係 電話 023-672-1111 (内線 314)